

2009年2月26日 物流ニッポン

フト開発事業者として、現場を回り貴重な情報をもたらってフィードバックしてきた。ドライブレコーダーは県内でも三割程度の事業者が採用し成果を出している。この分野とサーチャージに向けた原価管理で、IT（情報技術）によるサポートを進めていきたい」とあいさつ。

セーフティレコーダー（SR）導入事例として、北関東物流（栃木県壬生町）の神成光輝社長が講演。「二年前に導入したが、動機としては全車両の安全対策をどう確保するのか、軽油高騰対策をどうするのか、という二点。結果として全社平均で二四%もの燃費改善を達成した。今は燃費よりも安全管理に比重を置いている。新人教育の際には、SRの管理に対応できるかを重視している」と説明した。

そのほかに、特定社会保険労務士の岡部正治氏が「不況下の運送業の人事管理と助成金制度の活用」について講演。また、データ・テック（東京都大田区）の田野通保社長が、自社製品の運用方法などを解説した。

新春ジョイントゼミ

最新SR機器展示

IBC

【佐々木健】運送事業向けのソフトウェア開発を手掛けるIBC（篠原



「サポートを進めていきたい」と篠原社長

覚社長、宇都宮市）は十日、新春ジョイントゼミナーを開き、取引先など四十人が出席、最新エコドライブ機器の展示と活用事例の発表を行った。

篠原社長は「昨年来の軽油高騰と荷動き低迷への対策として、コスト削減は重要な経営課題になっている。われわれはソ